
課外教養プログラム プロジェクト活動報告

課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO) 学生スタッフの活動記録 (2021.3.31 現在)

1. メンバー構成：計 60 名 ※2020 年度卒業生を含む

(1) キャンパス別内訳

- ①市ヶ谷キャンパス 33名
- ②多摩キャンパス 16名
- ③小金井キャンパス 11名

(2) 学年別内訳

- ①1年生 11名
- ②2年生 16名
- ③3年生 14名
- ④4年生 18名
- ⑤その他 1名



2. ミーティング：

(1) 市ヶ谷キャンパス：春学期 週1回（木）／ 秋学期 週1回（火）実施

(2) 多摩キャンパス：春学期 週1回（曜日不定）／ 秋学期 週1回（曜日不定）

(3) 小金井キャンパス：春学期 週2回（火、水）／ 秋学期 週2回（火、金）実施

※その他、秋学期以降に全体ミーティング（3キャンパス合同）をオンラインにて月1回、サブミーティング（各キャンパス）を随時実施した。

※コロナ禍の影響により、全てのキャンパスにおいて、Zoomを用いたオンラインミーティングを実施した。

3. 実施目的：

- プロジェクト活動を通じた「ピアサポート」活動の展開
- プロジェクト活動を通じた「コミュニティ」の形成、「社会人基礎力」の養成

4. 外部団体との交流：

- ・新型コロナウイルスの影響により無し。

5. 担当職員による振り返り：

[市ヶ谷キャンパス] 担当：團之原啓一

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学生は入構が出来ず、大学の授業は完全オンライン授業に移行した。それに伴い、課外活動も自粛となり、課外教養プログラムプロジェクトの活動に大きな制限がかけられてしまった1年であった。大学の授業や課外活動が対面で一切出来なくなるという状況の中、市ヶ谷キャンパスの学生スタッフはオンライン会議ツール ZOOM や LINE 電話を用いて MTG や企画を行い、秋学期には対面での企画にこだわって、合計4つの企画を実施する事が出来た。

例年よりも企画数は少なくなりましたが、このような未曾有の事態において、自主的に学生スタッフとしてやらなければならない事を考え、企画を実施したという経験は学生スタッフにとって大きな財産となったのではないだろうか。

定例で行っている企画 MTG は、コロナ禍により、どのような状況になるのか分からないながらもオンライ

ン形式で週1回必ず行う事が出来た。

MTGでは「このコロナ禍の状況でどのような学生支援が出来るのか？」という事を前提に、様々な企画や取り組みについて活発な議論が行われた。特に9月に市ヶ谷キャンパスで行われた新入生歓迎会では、学生スタッフを中心となってコロナウイルス感染防止ポスターを作成し、キャンパス内の各所に掲示し、ピラとしても参加した学生に配布を行った。感染防止啓発の内容だけでなく、感染症の歴史やワクチン開発といった「学生の教養」となるような内容を盛り込んだ事で、非常にKYOPROらしい内容になったのではないかなと思う。

このように、学生が主体となってコロナ禍における学生支援を行った事は、「ピアサポート」の精神を強く体現し、なかなかイメージしづらいピアサポートがどのようなものなのかを学生に強く意識づける事が出来たのではないだろうか。

企画について振り返ると、2020年度は学生スタッフにとって「企画と向き合う1年」であったのではないかなと思う。

新型コロナウイルスにより、活動が制限されてしまった学生がどのような事を望んでいるのか？、コロナ禍の状況でどのような学生支援が出来るのかというのを突き詰めて考えながら、企画の立案、実施が出来ていたと感じている。その分企画実施までに時間はかかったが、学生の高い満足度を得られたのではないかなと思う。

例えば、「先人は凄かった！総長と学ぶ江戸ロジ」は、元々、江戸時代の環境配慮型社会について講義して頂くというものであったが、学生スタッフは、「コロナ禍の状況で学生同士の交流が著しく減っている為、グループワークといった学生同士の交流を内容に盛り込めば学生の満足度も高くなるのではないかな？」と考え、かるたを用いたグループワークを行った。その結果、アンケート回答には「友達と話す機会が減り、寂しい思いをしていたが、今回の企画で久しぶりに学生と話せてよかった」、「かるたを用いた事でより当時の環境配慮型社会について理解が深まった」といった声が上がった。

2月に行った「やる気の出る目標設定とは？！-動機づけの心理学からのアプローチ-」については、オンラインで心理学的視点から効率の良い独学の方法について学ぶ企画で、コロナ禍でも出来るスキルアップとして資格試験等に励む学生をターゲットに行った。この企画はまさに学生の今のニーズを掴んだ企画であったと感じている。コロナ禍によって、留学が中止になったり、悪化する就活状況から資格を取得しようとする学生が徐々に増えているという事を受けて、動機づけ心理学の教授を講師にお招きし、心理学的視点からやる気の出る目標設定や独学の方法をワークを通じてレクチャーして頂いた。アンケート結果も「心理学の研究の裏付けをされている計画立ての仕方を知ることができて良かったです」、「一方的に話を聞くだけではなかったので、実践的な学びがよく頭に入ってきた」といった声上がり、学生の満足度も高かった。

このように、「どのような企画にすれば、学生の学びに繋がるのか？」、「内容の中に、グループワークを入れる事でコロナ禍によって薄れている学生同士の交流のきっかけづくりが出来るのでは？」という事を学生スタッフが深く考え、企画に向き合う事が出来ていたかなと思う。

今までは、企画の準備や打ち合わせに時間がかかり、なかなか企画そのものに向き合う時間がなかったが、コロナ禍の状況によって、企画の実施時期が後ろ倒しになった事で企画に向き合う時間が出来たと感じている。今後は、徐々に活動が再開されるにつれ、忙しい日々に戻るかなと思うが、企画に向き合う時間は確保してほしいと思う。

そして、より企画を学生のニーズに即したものとし、充実した学生支援を達成できるように活動をしていてもらいたい。

[多摩キャンパス] 担当：新井 康平

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた2020年度多摩キャンパスでのKYOPROの活動は、大きく制限がありながらも挑戦的な活動でその逆境を乗り越えた一年だった。波乱の幕開けとなった新年度は、大学への入構制限の影響で新スタッフの確保ができない、これまでの活動で中心的な役割を担っていた4年生が就職活動で活動を離れるなどと、これまでも続いていた少人数での組織体制にさらに拍車がかかった厳しいスタートとなった。当然KYOPROのみならず大学内も、社会的にも先行きが不透明で、これまでの活動を維持していくことさえ難しい状況でもあった。しかし、オンラインでの全く新しいミーティング体制の構築や後述するその時々の学生のニーズを捉えたオンラインプログラムの立案など、この状況であっても「学生支援」というKYOPRO

の根幹のコンセプトを念頭に置きながら、そのとき必要な行動を柔軟に考え実践に移すことで乗り越えた彼らの姿勢は、法政大学が掲げる「自由を生き抜く実践知」を体現する活動ともいえただろう。結果として、全てをオンライン上で実施した定例ミーティングは毎週一回の実施を維持しながら年間計46回の実施、プログラムは過去4年で最多の年9回実施と、コロナ禍に覆われた激動の一年であったことを感じさせない実績となった。

プログラムについて具体的に振り返る。前述のとおり2020年度は全てのプログラムを過去にない「オンライン形式」で実施することとなったが、同時にこれまで以上に「学生のニーズ・状況」に目を向けてプログラム立案を行った。大学への入構禁止が続くなか、学内でも最も迅速に実施したオンラインプログラムである「多摩キャンパスバーチャルツアー」や、新入生の初登校直前に友人作りをテーマに実施した「大学生からのコミュニケーション」はコロナ禍における「ピアサポート」や「学生間交流」の形を示した大変意義のあるプログラムになった。またKYOPROのもう一つのコンセプトである「授業では得られない教養」「学びのきっかけづくり」においても、コロナ禍という社会状況から来る学生のニーズや、そういった状況があるからこそ充実した学生生活としてもらうための学びに関するプログラムを立案することで具現化を目指した。「おうち時間を楽しく」をテーマに実施した「あなたの身近な植物図鑑」「プロに学ぶ スマホでできる！お手軽カメラ講座」は外出自粛を余儀なくされた学生生活でも身近な学びへの関心を大切にしてほしいという想いのもと学生間交流も交えながら実施した。「コロナ禍の今だからこそ学べる・今しか学べない」をテーマに実施した「今こそ知ろう！オリンピック～スポーツが築く国際平和～」や「コロナ禍の今だからこそ学ぶ感染症」は参加学生にとって今この時代を考え、生き抜くためのヒントとなるようなプログラムになった。これらの結果として、プログラム実施数は過去4年で最多の年9回、参加者数計149名（前年度比236.5%）、参加者満足度平均90点と、これまで課題とされていた参加者数不足や少人数体制によるプログラム実施数の停滞をいずれも克服し、課外教養プログラムの新たな価値をも創造した結果となったといえるだろう。

このように2020年度のKYOPROの活動は、「不要不急」が叫ばれるなか、「コロナ禍の学生支援」を体現した法政大学にも、法政大学の学生にも「不可欠」な活動になったといえる。現在も続く新型コロナウイルスの感染拡大はとどまるところを知らず、今後もさらなる制約や社会状況の変化が生じることだろう。しかし、同時に多くの学生は人とのつながりや学びの場の大切さを再認識する機会にもなった。このような時代だからこそ、今後も課外教養プログラムだからこそできる「ピアサポート」の形で学生スタッフが「密」に団結し、法政大学の課題解決を通じて、大学全体のさらなる活性化を目指してくれることを期待したい。

〔小金井キャンパス〕担当：菅野 渉

2020年度のKYOPROは、新型コロナウイルス感染拡大の中、新たに3名のスタッフを加え11名で活動を行い、プログラムは秋学期に2プログラムを実施した。

春学期に関しては、最初はLINE電話を用いたMTG、大学でZoomを導入後はZoomを活用したMTGを行った。学生が原則研究目的以外の入構が制限される中で、対面とオンラインのMTGの違いに戸惑いながらも、新歓の振り返りや秋以降実施予定の企画について話し合いや検討を行った。

秋学期は実際の企画の準備を進めたが、「企画立案者が急用のため当日企画に参加できない」、「企画当日に運営を行える小金井のスタッフ数が多くない」等、授業時には大学にいる対面の時には想定できないトラブルが見受けられたが、企画立案者が台本を作成する、他キャンパスの学生スタッフに協力を仰ぐ形で企画を無事実施させることができた。2020年度は2年生5名を中心にMTGを行い、歴代の先輩たちも経験したことがないオンライン企画の実施方法を模索し、企画書を作成、当日実施という流れを経験・体験できたことは、今後のコロナ禍において1つの活動指針を固めることができた1年だったと言える。

春休み期間中には、「KYOPROの魅力伝えるため、2020年度より企画数を多く実施したい」という想いから「企画の案をスタッフみんなで考える」という時間をMTG中に設けたり、スタッフ発案の「企画書草案の書き方」のレクチャーをMTG中に行うなど、MTGのアジェンダにも工夫が見られた。

企画数に関して、実施数は多くはなかったが、このコロナ禍の中、KYOPRO企画実施の流れを止めることなく実施まで行えたことが1つの成果と捉えたい。

企画体制面に関しては、先述したように企画当日のマンパワーに関するトラブルが見受けられたが、これは小金井スタッフの予定の確認を行う前に担当講師に企画実施日を確認してしまったことが原因である。この反省を

活かし、今後は企画当日を見越した「先読みする力」に主眼を置いて企画を実施してもらいたいと考えている。

2021年度は運営の中心の3年生が研究室配属や就職活動や大学院進学準備等の影響で徐々に活動頻度が落ちてくると思われる。ピアネットの主旨である「学生から学生へのサポート」を実現するために、新2年生が中心となっていくよう日々のMTGや企画実施の流れを「体験」できるようなサポートを期待したい。新4年生は卒業研究などでさらに活動が難しくなると思われるので、職員としてもできる限りKYOPROの活動が継続できるようにサポートしていきたい。

学生スタッフからも「今後は対面の企画も実施したい」という要望も出ているので、大学内の行動指針等を確認していきながら、Withコロナ禍での対面実施も検討、話し合いを進めていきたい。

2020 年度プログラム実施一覧

	実施日	プログラム	申込者数	参加者数	留学生数
実施プログラム	5.29 (金)	●多摩キャンパスバーチャルツアー	22	17	0
	7.29 (水)	●あなたの身近な植物図鑑	29	29	2
	9.4 (金)	●大学生からのコミュニケーション	24	17	2
	10.6 (火)	●三曲体験教室 (学生生活応援プロジェクト)	7	7	0
	10.17 (土)	●小金井キャンパスバーチャルツアー	10	10	0
	10.23 (金)	●With コロナ,With 笑い HOS オンラインお笑いライブ	5	5	0
	10.28 (水)	●ジャズを楽しもう～With corona,With music～ (学生生活応援プロジェクト)	30	30	0
	11.10 (火)	●ジャズを楽しもう～With corona,With music～ (学生生活応援プロジェクト)	7	7	0
	11.16 (月)	●オンラインでは教えられないキャリアの裏側	15	11	0
	11.17 (火)	●先人は凄かった！総長と学ぶ江戸ロジ	15	15	0
	11.20 (金)	●茶道体験教室 (学生生活応援プロジェクト)	8	7	0
	11.24 (火)	●今こそ知ろう！オリンピック～スポーツが築く国際平和～	10	8	0
	11.25 (水)	●能楽体験教室 (学生生活応援プロジェクト)	3	3	0
	11.30 (月)	●プロに学ぶ スマホでできる！お手軽カメラ講座	30	25	2
	12.1 (火)	●ジャズを楽しもう～With corona,With music～ (学生生活応援プロジェクト)	30	21	0
	12.4 (金)	●エクストリームミュージックを知ろう！ (学生生活応援プロジェクト)	3	2	0
	12.4 (金)	●茶道体験教室 (多摩)	8	6	0
	12.11 (金)	●危険ドラッグの恐ろしさ～薬物乱用防止セミナー～	281	209	0
	12.14 (月)	●あなたの知らない空耳の世界	11	11	0
	12.17 (木)	●コロナ禍の今だからこそ学ぶ感染症～自分と周りの人を守る為に～	11	11	0
12.19 (土)	●法政大学×サラエボ大学 オンライン交流会	10	10	0	
2.1 (月)	●伝わるデザイン術～すべての表現を見やすく美しく～	50	38	2	
2.3 (水)	●やる気の出る目標設定とは！？-動機付けの心理学からのアプローチ-	54	27	0	
3.15 (月)	●流行りの曲から身に付ける理系的思考	43	23	0	
3.23 (火)	●伝える伝わるプレゼンテーション～実践で身に付ける魅力的なプレゼン術～	43	35	2	

25 プログラムに、約 600 名参加

* 上記は学生スタッフが企画・実施したプログラムだけでなく、既存プログラムなど学生センターが実施したプログラムを含む。

* 学生生活応援プロジェクトとは、コロナ禍にあっても学生生活を停滞させない為のプロジェクトの事。学生センターでは、サークル活動が停滞しない様に様々なサークルに声がけを行い、サークルと共同で企画を行った。